人文科教育研究　45　2018年　pp. 13－16

特別寄稿

中国における現代文の読解指導

康　海　栄

０．始めに

現代文の読解指導は，教師の指導の下で，生徒が現代文のテキストを読むことを通じて，読解力，思考力を上げ，読解の方法を身に付け，素養を向上させる過程である。異なる時代における異なる教育目標，教育対象に対応するために，中国の教師は，いくつか読解の流れおよび指導方法をまとめてきた。

19世紀前半以来，海外における読解の指導法は，中国の現代文教育に影響を与えてきた。たとえば，ドイツの教育家ヘルベルトが提示した「明瞭－連合－系統－方法」という四段階の指導法，そしてラインが提示した「予備－提示－比較－総括－応用」という五段階指導法などは，中国においてかなりの影響力を持っていた。

1921年，中国の語文教育家である黎錦熙は，「三段階六歩」指導法を設計した。それは「理解（予習，整理）－練習（比較，応用）－発展（創作，活用）」という指導法で，生徒の自主的な学習能力を育てようとしていた。

1925年，中国の語文教育家朱自清は，四段階指導法を提示した。つまり，「生徒は予習の結果を報告する→生徒はそれぞれの段落および文章の内容を要約して述べる→教師は生徒とともに，テキストに表している感情およびテキストの書き方について検討する→口頭であるいは筆記でテストする」という指導法である。

中華人民共和国が成立された初期（1950年代）において，中国の語文教育界では，「始め－解説して分析する－概括－復習」という四段階指導法は提示された。これは前ソ連の「始め（作家およびテキストの背景を紹介し，言葉を解釈する）－読んで分析する（作品を朗読し，ストーリーを分析する）－終わり（テキストの主題および書き方を概括する）」という文学の三段階指導法に深く影響されていた。

改革開放（1980年代）以来，語文科の現代文指導における改革は活発になり，たくさん特徴のある読解指導法は提示されている（区培民，2001，p.183）。たとえば，上海育才中学の段力佩の「読む－議論－解説－練習」，上海の銭夢龍の「自読－教読－練習－読み返す」，武漢の洪鎮濤の「言語学習」を核心とした読解指導法，つまり「言語を感受し，語感に触れる－言語を味わい，語感を悟る－言語を実践し，語感を習得する－言語を蓄積し，語感を定着させる」という方法などがある。以上挙げた現代文指導法の共通点は，学生の自主的な学習を強調し，聞く話す読む書くという語文能力を全面的に育て，教師と生徒の間の多方向的な交流を重視していることである。

上述した経験をまとめ，生徒の読解力の発達段階を考慮したうえで，中国教育部が制定した

『語文科課程標準』および現行の教科書におけるテキストの種類に基づいて開発された，現在中国において代表的な現代文指導法を紹介する。

現在，中国の語文科教科書において，読解のテキストは二種類ある。それは教師が授業で詳しく読解の指導を行う「教読テキスト」と，生徒が自ら読む「自読テキスト」である。一つの単元には両方のテキストが含まれている。今回は，それぞれの類型のテキストの代表的な指導法，および両方を考慮した読解単元の指導法について紹介したいと思う。

なお，中国の教科書について簡単に説明する。小，中，高の段階では，一学期一冊の教科書が使われる。一冊の教科書において，５，６の単元があり，一つの単元において５，６篇のテキストがある。その中，自読テキストは１，２篇ぐらいある。

１．教読テキストの指導過程と方法

典型的な指導法として，「方向を定める→自学→討論→疑問を答える→自己評価→自己総括」（魏書生，2000，pp.133-135）というものを挙げることができる。

第一次において，教師が学習と訓練の重点，難しいところを確定し，生徒に学習の方向を示す。

第二次において，生徒が学習の重点と難点に基づいて，自分で答えを探し出す。

第三次において，生徒が自学を通じても解決できない問題は，生徒同士で討論する。

第四次において，討論しても解決できない問題や，答えに関して分岐がある問題は教師から説明し，答えを導き出す。

第五次において，最初に提示された学習の重点と難点に基づいて，生徒が自分で十分ぐらいで完成できる自己評価の問題を作る。自分で答えて自分で評価し，学習の効果を測定する。

第六次において，授業が終わる前に，生徒は今回自分が勉強になったことをまとめる。何人かの代表者を選び，クラスの前で自分の考えを発表させる。

現代文の指導は，教師が主導的作用を発揮し，生徒が現代文の読解方法を身に付けさせ，読解力を育て，最終的に生徒が指導を受けなくても自分で読解できることを目的とする。現代文の学習では，「感知－理解－運用」，「全体－部分－全体」，「形式－内容－形式」などの規律がある。

教読テキストだけではなく，自読テキストの指導や単元指導においても，この三つの規律が機能している。

２．自読テキストの指導過程と方法

典型的な指導法として，「初歩感知－辨体析題－定向問答－深思質疑－複述整理」（銭夢龍，2006，pp.64-67）というものを挙げることができる。

第一次において，テキストを読んで，文章の内容，言葉遣いについて全体的なイメージをつかむ。

第二次において，文体を意識し，文章の主題，主旨を解析し，文章の形式と内容を把握する。

第三次において，方向を決めて，問題を作って答える。たとえば，「テキストは何を書いた？」

「どのように書いた？」「なぜこのような書き方をした？」などの順序で，自問自答か互いに質問し合う。

第四次において，さらに形式，内容について考え，理解を深める。

第五次において，テキストの重点つかみ，自分の言葉でまとめる。そして読書の感想を整理する。

以上の五つのステップは，現代文読解の「外面から中身，中身から外面，その過程を繰り返す」という基本的な流れを構成している。長い間このような訓練を受ければ，生徒は教師の指導なしでも独立で読解することができる。

３．単元指導の過程と方法

典型的な指導法として，「導入－教読－自読－まとめ」（山東泰安六中語文組，1993）というものを挙げることができる。

第一次は導入の段階である。どれは単元指導の最初のステップであり，基本的な任務は方向を定めることである。主に四つのことをしなければならない。１.教師が単元の内容を概説し，単元の目標を明確にする。２.生徒が単元のすべての現代文を通読し，共通している基本的な知識を確認する。３.辞書などを用い，分からない文字を調べる。４.読んで分からなかったものを記録する。

第二次は教読の段階である。これは単元指導の一番重要な段階である。基本的な任務は，範例を解剖すること，典型的な文章を分析することなど，生徒を引導することである。教師が主導し，生徒とともに一篇か二篇のテキストを精読し，この精読の過程をその後，生徒が自分で自読テキストを読むときの範例とする。このステップでは，注意しなければならないことが三点ある。１.精読のテキストは代表性を持たなければならない。一般的には，教読のテキストから選ぶ。２.学習方法の引導に重点を置く。生徒に範例を示し，読解の方法を教える。３.教師が主導的な作用を発揮し，多様な指導法を使う。

第三次において，自読にかかわる活動が行われる。これは生徒が自学の能力を育てる肝心なステップである。基本的任務は，生徒が教読の授業で学んで知識や方法を運用し，訓練の要点に基づいて自読を行うことである。教師は補助的な指導を行う。基本的な流れは，１.教師が目標と要求を明確にする。２.生徒が自読活動を行う。３.生徒が目標をめぐって討論を行い，具体的な問題を解決する。４.教師がまとめる。

第四次はまとめる段階である。これは単元指導の全体性，段階性を表す重要なステップである。基本的な任務は，１.生徒が学んだテキストを比較して参照しあう。２.生徒に知識を整理させ，知識の運用を能力に発展させる。生徒が帰納的に考え，知識をまとめることができるよう引導する。３.テストや知識運用の訓練を行い，学習の内容を広げる。４.書くことや話すことなど，表現活動を行う。

４．考察と展望

中国における現代文指導の過程と方法は，ほかにもたくさんあるが，ここでは以上の六つだけを紹介した。これらの指導法を評価するなら，一言でいうと，良い点もあれば問題点もある。

良い点をいうと，

①教育における，教師と生徒の地位と作用を新たに構築しようとしている。

②授業の単純化，模式化の場面を打開し，多種多様の指導プロセスが形成されている。

③教育の重点は，教科書の知識を教授することから，言語能力を訓練することに変わっている。を挙げることができる。

しかし，問題点も明らかである。

①教師が依然として支配的な地位を持っており，授業はまだ本当の意味での改革を実現していない。

②知識の教授や能力の訓練に重点が置かれ，そのほかの能力，素養の育成は足りていない。

③学習の評価は最終到達度を計るための総括的評価にとどまっている。

近年，中国における基礎教育課程は改革を進めている。一部分の語文教育関係者は現代文読解の指導策略に関する理論[1]および実践研究[2]を行っている。今後のさらなる発展を期待しよう。

注

（１） 理論研究に関しては，区培民（2001）『語文教師課堂行為系統論析』（上海華東師範大学出版社，pp. 189-216）を参照したらよい。

（２） 実践研究に関しては，魏国良（2007）『高中語文教材主要文本類型教学設計』（上海教育出版社）を参照したらよい。

引用・参考文献

銭夢龍（2006）『銭夢龍与導読芸術』北京師範大学出版社

区培民（2001）『語文教師課堂行為系統論析』上海華東師範大学出版社

山東泰安六中語文組（1993）「喜看教壇開新花」『語文教学通訊』第５期

魏書生（2000）『語文教学』瀋陽出版社

翻訳：鄭一葦